

紺碧の海

令和6年10月23日 第4号 文責：校長



令和6年度「学校評価」と「まなびフェスト」 中間評価結果（前期）のお知らせ

令和6年度 学校評価結果（本校職員による学校経営に係る自己評価）

陸前高田市立高田第一中学校

1 学校教育目標について

A：達成できた、B：ほぼ達成できた、C：あまり達成できなかった、D：達成できない

評価項目		肯定的評価の割合	A		B		C		D		課題クリア
			%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	
学【知】 びを 鍛える	1 自ら学ぶ意欲・態度の育成に努めている	88.9	22.2	4	66.7	12	11.1	2	0.0	0	○
	2 「わかる授業」づくりに努めている	94.4	27.8	5	66.7	12	5.6	1	0.0	0	◎
	3 各種調査結果による学力の実態把握と活用にも努めている	94.4	16.7	3	77.8	14	5.6	1	0.0	0	◎
	4 特別支援教育の充実に努めている	83.3	5.6	1	77.8	14	16.7	3	0.0	0	○
心【徳】 を 鍛える	5 道徳教育の充実に努めている	100.0	33.3	6	66.7	12	0.0	0	0.0	0	◎
	6 体験活動の充実に努めている	100.0	77.8	14	22.2	4	0.0	0	0.0	0	◎
	7 発達支持的生徒指導の充実に努めている	100.0	11.1	2	88.9	16	0.0	0	0.0	0	◎
	8 学校不適応対策の充実に努めている	94.4	22.2	4	72.2	13	5.6	1	0.0	0	◎
体【体】 を 鍛える	9 体力・運動能力の向上に努めている	94.4	27.8	5	66.7	12	0.0	0	0.0	0	◎
	10 歯の健康教育の推進に努めている	100.0	33.3	6	66.7	12	0.0	0	0.0	0	◎
	11 肥満予防と対策に努めている	88.9	16.7	3	72.2	13	5.6	1	0.0	0	○
	12 現代的健康課題への対応に努めている	94.4	33.3	6	61.1	11	0.0	0	0.0	0	◎

2 学校経営の重点項目について

A：達成できた、B：ほぼ達成できた、C：あまり達成できなかった、D：達成できない

評価項目		肯定的評価の割合	A		B		C		D		課題クリア
			%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	
生徒の 学力向上	1 学習活動、学校行事等において、主体的かつ諦めずにやり抜く態度の育成に努めている	100.0	27.8	5	72.2	13	0.0	0	0.0	0	◎
	2 授業では明確なゴールの姿を共有し、学習規律の確立と学び方の指導に努めている	100.0	22.2	4	77.8	14	0.0	0	0.0	0	◎
	3 教科担任が授業と家庭学習の一体化を図り、確実且つ適切に評価している	76.5	29.4	5	47.1	8	17.6	3	0.0	0	▼
	4 「いわての授業づくりの3つの視点」のうち、特に「学習の振り返り」の工夫・改善による授業設計を積み重ねている	94.1	70.6	12	23.5	4	5.9	1	0.0	0	◎
	5 「確かな学力育成プラン」の重点である「目的や場面、状況に応じて、自分の考えをわかりやすく表現する力」の育成に努めている	94.1	29.4	5	64.7	11	5.9	1	0.0	0	◎
	6 ICT活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の推進に努めている	88.2	23.5	4	64.7	11	11.8	2	0.0	0	○
	7 各種検定に積極的に挑戦するように指導している	88.2	29.4	5	58.8	10	11.1	2	0.0	0	○
豊かな 心の 育成	8 生徒指導の三機能（自己存在感、共感的理解、自己決定の場）を生かして自己指導能力の育成に努めている	100.0	16.7	3	83.3	15	0.0	0	0.0	0	◎
	9 生徒の心を揺さぶる道徳教育を展開するなど、実態に即した多様な活動をととして、思いやりや感謝の心を育てる	100.0	16.7	3	83.3	15	0.0	0	0.0	0	◎
	10 いじめの未然防止・早期発見に努めるとともに、いじめを許さない学級・学年経営に努めている	100.0	61.1	11	38.9	7	0.0	0	0.0	0	◎
	11 学校不適応の未然防止・早期発見・早期対応のための組織的指導体制の構築と、関係機関と連携を強化しながら教育相談の充実に努めている	88.9	44.4	8	44.4	8	11.1	2	0.0	0	○
健やかな 体の 育成	12 生徒の体力向上に努めている	100.0	16.7	3	83.3	15	0.0	0	0.0	0	◎
	13 歯の健康教育を推進し、歯の治療率の向上に努めている	100.0	33.3	6	66.7	12	0.0	0	0.0	0	◎
	14 食育講座や食育個別相談を実施し、肥満傾向の生徒割合の低下に努めている	94.4	33.3	6	61.1	11	5.6	1	0.0	0	◎
	15 薬物乱用防止教室や思春期講座を実施、現代的健康課題の未然防止に努めている	100.0	38.9	7	61.1	11	0.0	0	0.0	0	◎
キャリア教育	16 キャリア教育を充実させ、生徒一人ひとりの「総合生活力」と「人生設計力」の育成に努めている	100.0	41.2	7	58.8	10	0.0	0	0.0	0	◎
特別 支援 教育 の 充実	17 「個別的教育支援計画」を活用し、入学から卒業までの一貫した教育支援を行っている	100.0	25.0	4	75.0	12	0.0	0	0.0	0	◎
	18 「個別の指導計画」を作成し、それに基づいた指導・支援を行っている	100.0	25.0	4	75.0	12	0.0	0	0.0	0	◎
	19 全教職員が特別支援教育に関する研修を受講し、校内教育支援体制の整備に努めている	38.9	11.1	2	27.8	5	61.1	11	0.0	0	▼
復興教育	20 復興教育を充実させ、郷土を愛し、その復興・発展を支える人材の育成に努めている	100.0	88.9	16	11.1	2	0.0	0	0.0	0	◎
危機 管理 体制 の 構築	21 学校安全計画の周知や徹底に努めている	100.0	44.4	8	55.6	10	0.0	0	0.0	0	◎
	22 校舎施設の適切な管理と定期点検に努めている	100.0	44.4	8	55.6	10	0.0	0	0.0	0	◎
	23 最新の緊急対応に係る校内研修の実施や、各々の対応に関するガイドラインの周知徹底に努めている	88.9	38.9	7	50.0	9	11.1	2	0.0	0	○
家庭・ 地域 との 協働	24 家庭や地域の声を踏まえた教育活動の推進に努めている	100.0	33.3	6	66.7	12	0.0	0	0.0	0	◎
	25 校報や各種通信等により、学校内外の教育活動の様子等について情報発信に努めている	100.0	66.7	12	33.3	6	0.0	0	0.0	0	◎
	26 地域人材・資源を活用した体験学習の推進に努めている	94.4	66.7	12	27.8	5	5.6	1	0.0	0	◎
働き方 改革 の 推進	27 最終退勤時刻20時を設定し、無制限・無限定の勤務廃止に努めている	83.3	16.7	3	66.7	12	11.1	2	5.6	1	○
	28 校内における業務内容の見直しや組織チームワークの向上、効率化、質を下げない取組に努めている	94.4	33.3	6	61.1	11	5.6	1	0.0	0	◎
	29 週末における部活動の地域移行を進めている	83.3	33.3	6	50.0	9	11.1	2	5.6	1	○
	30 部活動休養日を適切に確保している	94.4	66.7	12	27.8	5	5.6	1	0.0	0	◎

令和6年度まなびフェスト『生徒を鍛える学校』—本気で取り組む高田一中生— 前期評価結果

陸前高田市立高田第一中学校

校訓 明朗 自主 創造
教育目標

【知】
賢く

【徳】
優しく

【体】
逞しく

評 価 項 目

R 6
目標

比較

年度末評価
(A+B) %

A B C D

知	学 校	将来の夢や目標を持っている生徒の割合	75%	↗	83%	49	34	12	5
		「授業の内容が分かる」と応えた生徒の割合	70%	83%	国 93	56	37	6	1
					数 74	37	37	17	9
					社 90	54	36	9	1
					理 81	32	49	16	3
					英 76	37	39	15	9
	地 域 と 協 働	弱点を克服するための学習や発展的な学習に自ら取り組んでいる生徒の割合	60%	↗	67%	23	44	22	11
		学校の宿題だけではなく、自主学習に取り組んでいる生徒の割合	75%	↘	70%	37	33	18	12
		話し合い活動や発表の場面では、自分の考えをわかりやすく伝えようと心がけている生徒の割合	50%	↗	A割合 60%	60	36	3	1
		自分の住む地域には良いところがあると思っている生徒の割合	90%	↗	98%	79	19	2	0
学校や地域が行う体験活動に参加し、達成したよこびややりがいなどを感じている生徒の割合		85%	↗	96%	65	31	3	1	

*「授業の内容が分かる」生徒の割合は、目標の70%を全ての教科において超えているが、個別の状況を見ると「分からない」と訴えている生徒も一定数おり、特に数学・理科・英語にその傾向が強い。小学校との連携も図り、個々のつまづきを引き上げる組織的な取組について検討が必要である。

*「弱点を克服するための学習や発展的な学習に自ら取り組んでいる」生徒の割合について、目標値60%に対し10月実施の県学調質問紙調査では67%だったが、約3割が否定的回答を出している。また、「学校から出される宿題だけではなく、自主学習に取り組む」という項目も同様の傾向を示している。これらのことから、学習習慣の確立が下半期に向けた大きな改善課題である。各教科担任が宿題と自主的・自発的な学習に分け、「何を・どのように・どれくらい」すればいいのか学び方について丁寧に指導・評価しながら改善に務めていくとともに、個々の非認知能力の育成も意図的に取り組んでいかなければならない。

さらには、家庭での生活リズム（TV・ゲーム・インターネット）との関連も踏まえながら指導していく必要がある。学校教育目標に掲げる「自主的な学び」をいかに定着させていくか、今後家庭との一層の連携強化を図りつつ、授業との連動した家庭学習の取組と、それを確実に評価していくシステムを構築したい。

*地域の人的・物的資源を活用した教育課程内外の体験活動を推進していることにより、「学校や地域が行う体験活動では、達成した喜びややりがいなどを感じる」ことができた」や「学校や地域が行う体験活動に、今後も継続して参加したと思っている」と答える生徒の割合が想定以上に伸びている。次年度以降も更に地域連携の可能性を探りながら継続・発展させていく価値が高いと考えられる。

徳	学 校	「学校に行くのは楽しい」と思っている生徒の割合	80%	↗	93%	64	29	6	1
		自己肯定感をもっている生徒（自分には良いところがあると思っている生徒）の割合	70%	↗	84%	36	48	14	2
		人が困っているときは、進んで助けようと思う生徒の割合	95%	↗	99%	76	23	1	0
		いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う生徒の割合	100%	↘	99%	86	13	1	0
		多様な意見を認め合うことに価値を感じている（自分と違う意見について考えるのは楽しいと思っている）生徒の割合	75%	↗	91%	45	46	8	1

*教職員はあらゆる場面で生徒個々の良い点を認め可能性を引き出そうと対応しており、昨年度と比較して生徒自身の自己肯定感が高まっている。しかしながら、更なる子どもたちの自信へと繋げるべく生徒指導の三機能（自己存在感・共感的理解・自己決定）を活かして自己指導能力の育成に向けた具体的な手立ても更に検討する必要がある。「自分にはよいところがあると思う」生徒の割合を90%まで高めたい。

*諸活動の中で生徒も他者との関わり方を身に付けており、概ね他者の人の大切さを認めることができる状況であり、いじめ問題も多くはなかった。特に生徒会が主体となっていていじめ問題について考える取組は、いじめを生まない学校風土を創るうえで効果が大きいと考える。また、いじめ問題はいつでも、どこでも起こり得るものとして、その未然防止や早期発見の取組や教育相談体制を組織的な取組へと強化していることも有効だったと考えられる。

体	学 校	体力・運動能力調査の総合評価（5段階評価A～E）で、A・B・C段階の生徒の割合	80%	↗	81%	男子 80.0%			
						女子 82.1%			
		肥満傾向生徒の割合（1月身体測定結果）	10%以内	↘	13%	男子 14.8%			
						女子 11.9%			
	家 庭 と 協 働	先生や周りの人は、自分の良いところ認めてくれていると思う生徒の割合	90%	↗	93%	52	41	6	1
		う歯のない生徒及びう歯治療完了生徒の割合（冬休み終了時点）	80%	↘	71%	う歯なし 98名 処置完了 22名 治療未了53名			
		スマートフォンやインターネットを使うときは、危険に巻き込まれる可能性があることを理解している生徒の割合	100%		100%	93	7	0	0

*「体力・運動能力の向上」については、継続的な「60運動」の取組により一定の成果が見られている。数値目標と比べると、2年生男女と3年生男子が85%を超えている。逆に1年生男子が63%と低く、小学校時代における運動経験の未熟さが原因と思われる。肥満傾向も1年生男子が21%と課題である。肥満予防対策の一つとして、昨年度からのスポーツ医・科学サポート事業によるトレーニングや食育を含めた講習会を実施しているが、明らかに生徒及び教職の意識が高まっており、今後も継続していきたいと考える。

*歯の治療率は、幼少時代からの取り組み成果として概ね良好な結果となっているが、引き続きう歯未完了生徒に対して早めの治療を促し、冬休み終了時点で目標値達成を目指したい。

*教育相談については、教職員が心身のゆとりを持って生徒と接することができるよう早急な業務改善と共に、発達支持的生徒指導を充実させるために教育相談体制の点検が急務であるとする。

*スマホの使用については、生徒たちは情報モラルに対する知識は持っているものの、日常的に長時間に渡る使用で生活リズムを崩したり、友人とのSNS等のやりとりが原因で人間関係に問題が生じさせているケースが目立つ。県学調質問紙調査から、全校生徒の約6割（94名）が1日当たり2時間以上携帯電話やスマートフォンを使用していることが判明した。3時間以上の使用者も50名いる。家庭ルールの徹底について粘り強く家庭への協力を求めていくことと、スマホ・インターネットが絡む生徒指導上の問題が発生した場合には、直ちに警察に対応を依頼しながら毅然と問題解決に向けて進めていくことを、繰り返し生徒に周知していく。